

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1 部 2 年 2 部 2 年	保育内容・環境	井上 由利子	
サブタイトル	環境のねらいと内容の理解	単 位 数	1
授業形態	演習		
開講時期	前期	出席要件	4 / 5 以上
到 達 目 標			
1 幼児教育は『環境を通して行うものである』ことの意義を理解し、領域「環境」に関するねらい及び内容にかかわる専門的な知識を身に付ける。 2 自然環境・物的環境・人的環境における実践的な保育技能を身に付け、評価の考え方を理解する。 3 幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科との繋がりを理解する。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
1 自然環境に触れる直接体験は時を逃さず捉えることが必要なことから、その感性を磨き、情熱や責任感を身に付ける。 2 物的環境の構成力は人的環境とも重なることから、実践的な学びを身に付け、保育者としての質を高める。 3 模擬保育を通して教材の活用と指導の工夫を学ぶ中で専門性を身に付けていく。			
授 業 の 方 法			
1 環境を 3 つの視点（自然環境・物的環境・人的環境）から理解し、模擬保育を通して具体的な保育を想定した指導案作成と実践後の反省評価により、保育を改善する視点をもつ。 2 幼稚園、保育所、こども園等における現場の多様な保育環境の実際を知って環境の在り方を理解し、教材研究を実践的に行いながら指導力を高める。 3 情報機器及び環境に関わる教材の活用法を理解し、保育の構想力に活用する方法を学ぶ。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『事例で学ぶ保育内容〈領域〉環境』 無藤 隆監修 萌文書林 2018 年 参 考 書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017 年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
・ 定期試験、教材作品、レポート等で総合的に評価する。		定期試験	30%
		教材作品	40%
		レポート	30%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
・ 授業にはテキストと参考書を持参、記録や資料はノート又はファイル等を用意して整理すること。 ・ 幼稚園教諭としての長年にわたる勤務経験、園長経験を活かした授業を展開し、教材研究を含めた保育方法を学びます。 ・ inoue.yuriko@wa.seitoku.ac.jp			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1 回	ガイダンス ・ 幼稚園教育要領に基づく「環境」のねらいと内容を理解する。	環境教育の基本理解
2 回	物的環境におけるねらいと内容の理解とその指導法① ・ 物的環境の実際を知る。	発見力 解決力 操作力
3 回	物的環境におけるねらいと内容の理解とその指導法② ・ 保育実践 ～ワクワク保育室づくり～	構想力 実践力 協働性
4 回	自然環境におけるねらいと内容の理解とその指導法① ・ 自然環境の実際を知る	感性 受容力 創造性
5 回	自然環境におけるねらいと内容の理解とその指導法② ・ 保育実践 ～自然を活かした教材づくり～	感性 実践力 想像力
6 回	飼育・栽培環境の重要性とその指導法	生命尊重の態度 観察力
7 回	身近な事象を保育に取り入れる重要性とその指導法①	思考力 実践力
8 回	身近な事象を保育に取り入れる重要性とその指導法② ・ 保育実践 ～たかがシャボン玉 されどシャボン玉～	感性 想像力 実践力
9 回	思考力・表現力を高める物的環境の役割とその指導法①	思考力 表現力
10 回	思考力・表現力を高める物的環境の役割とその指導法② ・ 保育実践 ～身近な道具を使った教材研究～	思考力 表現力 操作力
11 回	環境教育における伝統・文化の役割理解とその指導法①	思考力 表現力
12 回	環境教育における伝統・文化の役割理解とその指導法② ・ 保育実践 ～伝統・文化を活かす教材づくり～	想像力 実践力 操作力
13 回	環境教育における生活実践の重要性 ・ 地球環境と生活環境との関連を実践する	思考力 問題解決力
14 回	文字環境の在り方とその指導法 ・ 小学校以上の教育の基盤となる幼児教育が果たす役割	感性 指導力
15 回	まとめ ・ 人的環境における保育者が果たす役割とその重要性	感性 豊かな心情 指導力
試験	定期試験	

